

Title	赤川元章教授退任記念号発刊にあたって
Sub Title	
Author	桜本, 光(Sakuramoto, Hikaru)
Publisher	慶應義塾大学出版会
Publication year	2007
Jtitle	三田商学研究 (Mita business review). Vol.49, No.6 (2007. 1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	赤川元章教授退任記念号
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234698-20070100--002">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234698-20070100--002</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 赤川元章教授退任記念号発刊にあたって

赤川元章教授は2006年3月31日をもって定年で退職になられました。退任記念号発刊にあたり同教授の略歴のご紹介と商学部教員を代表しまして、今日まで35年余りにわたる教育・研究・大学運営の多大な功績に対し一言御礼を申し上げたいと思います。

赤川元章教授は、1965年3月に慶應義塾大学商学部を卒業されたのち、同大学大学院商学研究科修士課程に進学され、1971年3月博士課程を修了されております。その間博士課程在学中の1970年4月に同大学商学部助手に就任されました。その後、1974年4月に同学部助教授、1985年4月に同学部教授に昇進され、現在に至っております。その間、1995年2月に慶應義塾大学より商学博士の学位を授与されております。

赤川教授は、長年にわたって金融・証券・貨幣に関する諸問題の経済学的研究に従事され、この分野において多大の業績をあげてこられました。その主著『ドイツ金融資本と世界市場』（慶應義塾大学商学会商学研究叢書、慶應通信、1994年）は、1914年以前のドイツ資本主義の対外発展プロセスを金融資本運動世界化の観点から実証主義的に分析した大著であり、ドイツ金融資本の世界展開に関する日本語文献ではいまだに右に出るものがないといわれる業績であります。その意義は、1995年度の義塾賞を受賞したことからも明らかと言えましょう。

ドイツ金融資本の研究に限らず、赤川教授は、リーフマンやヒルファーディングの学説研究から貨幣金融史に至るまでの幅広い分野において、常に学界の注目を浴びる著書や論文を発表してこられました。最近では、チェコスロバキアにおける国有企業の民営化に関する諸問題の考察や、株式会社資本の有する3つの側面すなわち現実資本、擬制資本、会計上の自己資本の相互連関についてのユニークな考察などで、学界の注目を浴びてこられました。

赤川教授は、教育面においても多大の業績を上げてこられました。三田においては、3年生と4年生を対象に「証券経済論」と「貨幣論」を長きにわたって教えてこられ、経済学の中でもとくに難しいと言われる証券論や貨幣論を、抽象理論に偏ることなく、現実との対応を常に意識しながら、説得的にそして情熱的に解説する赤川教授の講義は、受講生に深い感銘を与えてきました。また、日吉においては「社会経済学」を担当され、現代経済の提起する社会制度上の諸問題に対する関心と分析視点を初学者に植え付けさせるのに多大の貢献をされてこられました。また赤川教授は、塾外においても、日本経済学会連合の評議員を5年間勤め、また証券経済学会の常務理事を1997年以降現在に至るまで勤めるなど、学会発展のために多大の貢献をされてこられました。

赤川先生は、いままでに商学部の学部改革や様々な危機に際して常に重要な提言をなされ、活

発な議論を誘発する意見を述べてこられました。その若々しく、エネルギッシュな姿を知っている我々にとって定年と聞いて大変驚いているのが実情であります。慶應義塾に定年規定がある限りいたしかたがないことですが、今後も健康に留意され、なお一層のご活躍をお祈りいたします。今後も、名誉教授として研究・教育の場で、我々を含めた後進の指導をお願いし、はなはだ簡単ですが、お礼の言葉にかえさせていただきます。

2006年12月1日

商学部長 桜 本 光